BCC CQ4 (1)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚腫瘍（悪性黒色腫、基底細胞癌）	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Value of high-frequency US for preoperative assessment of skin tumors**	
	論文の日本語タイトル	皮膚腫瘍の術前評価としての高周波エコーの有用性	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ4-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅴ ）	
	Pubmed ID	9397463	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Radiographics	
	雑誌 ID		
	巻	17	
	号	6	
	ページ	1559-1565	
	ISSN ナンバー	pISSN: 0271-5333 eISSN: 1527-1323	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	1997	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Lassau N	Institut Gustave Roussy
	その他著者 1	Spatz A	
	その他著者 2	Avril MF	
	その他著者 3	Tardivon A	
	その他著者 4	Margulis A	
	その他著者 5	Mamelle G	
	その他著者 6	Vanel D	
	その他著者 7	Leclere J	
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

<table>
<tr><td rowspan="15">一次研究の8項目</td><td>目的</td><td colspan="2">皮膚腫瘍における術前評価としての高周波エコーの有用性を検証する</td></tr>
<tr><td>研究デザイン</td><td colspan="2">症例集積研究</td></tr>
<tr><td>セッティング</td><td colspan="2">1 総合病院（フランス）</td></tr>
<tr><td>対象者</td><td colspan="2">組織学的に確認された悪性黒色腫 19 例と基底細胞癌 31 例</td></tr>
<tr><td>対象者情報（国籍）</td><td colspan="2">1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（　3　）</td></tr>
<tr><td>対象者情報（性別）</td><td colspan="2">1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（　3　）</td></tr>
<tr><td>対象者情報（年齢）</td><td colspan="2">1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児
7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年
9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年
11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人
13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人
16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人
19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人
22.年齢区別せず　（　22　）</td></tr>
<tr><td>介入（要因曝露）</td><td colspan="2">1）悪性黒色腫：20MHz 高周波エコーによる tumor thickness の計測
2）基底細胞癌：20MHz 高周波エコーによる水平方向の腫瘍径の計測</td></tr>
<tr><td>ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）</td><td>エンドポイント</td><td>区分</td></tr>
<tr><td>1</td><td>悪性黒色腫：組織学的な tumor thickness</td><td>1.主要 2.副次 3.その他（　1　）</td></tr>
<tr><td>2</td><td>基底細胞癌：エコー計測の腫瘍径と臨床的な腫瘍径の一致率</td><td>1.主要 2.副次 3.その他（　1　）</td></tr>
<tr><td>3</td><td>基底細胞癌：切除断端の腫瘍細胞陽性</td><td>1.主要 2.副次 3.その他（　2　）</td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td>1.主要 2.副次 3.その他（　　）</td></tr>
<tr><td>主な結果</td><td colspan="2">1）悪性黒色腫：19 例中 13 例はエコー計測と組織学的な tumor thickness がほぼ一致（決定係数 R^2=0.9959）。エコーによる計測が上回っていたのが 2 例、下回っていたのが 4 例であった。
2）基底細胞癌：31 例中 20 例（65%）でエコー計測の腫瘍径と理学的所見で臨床的に計測した腫瘍径が一致し、それらは全例で切除断端が陰性であった。エコー計測が臨床的計測を上回っていたのが 9 例、下回っていたのが 2 例で、切除断端陽性は前者で 5 例、後者は 2 例とも陽性であった。</td></tr>
<tr><td>結論</td><td colspan="2">高周波エコーは簡便で低侵襲であり、切除範囲の決定には有用である。</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">レビューワーコメント</td><td>レビューワー氏名</td><td colspan="2">竹之内辰也</td></tr>
<tr><td>レビューワーコメント</td><td colspan="2">エビデンスのレベル分類（V）
基底細胞癌に関して：31 例中 9 例においてエコーで計測した腫瘍径の方が視診・触診上の腫瘍径より上回っていた訳であるが、結果的に組織学的な腫瘍径の計測がなされていない。切除断端の腫瘍残存の有無を組織学的な計測の代用としているが、どの程度の切除マージンをとったのかが記載されていないために、結局エコーで計測した腫瘍径がどの程度正確であったのか評価が出来ない。</td></tr>
</table>